

# 行政視察報告書

令和5年1月26日

前橋市議会議長 小曾根 英明 様

議員 長谷川 薫      議員 近藤 好枝

議員 小林 久子      議員 吉田 直弘

記

## 1 期 日

令和5年1月11日（水）～ 1月12日（木）

## 2 視 察 先

大阪府泉南郡熊取町、奈良県桜井市

## 3 視察事項

熊取町 熊取町図書館の事業運営について  
桜井市 桜井市埋蔵文化財センターの事業運営について

## 4 視察概要

別紙のとおり

# 日本共産党前橋市議団 議員派遣視察報告書（別紙）

## 1、熊取図書館の活動について

大阪府熊取町は大阪市からJRで約35分のベッドタウンとして発展してきた人口約4万3千人の都市です。図書館整備の住民要望が平成2年頃から高まり、準備・構想段階から住民参加・住民共同が貫かれ、平成6年の開館後も、行政や専門家にとどめず住民代表を重視して委員に委嘱した、図書館長の諮問機関である図書館協議会（委員10名）が設置され、各年度3回以上の協議会を開催し、住民と図書館が連携した多彩な運営が貫かれています。

図書館長から説明を受けましたが、具体的には、一般的な図書館の運営だけではなく、生涯学習推進計画、小中学校や福祉部門と連携したGIGAスクールへの対応や発達障害の子どもを対象とした早期連携などにも積極的に取り組んでいます。そのために読書活動推進連絡協議会（委員13名）も開設し、きめ細やかな子ども向けサービスを推進し、図書館と学校や保育所などと連携し、子どもと保護者を結ぶ読書活動が展開されています。今年度からは、電子図書も開始しています。

また同町では、行財政改革の観点から2009年、2019年に同図書館を指定管理の対象としましたが図書館協議会が「図書館事業は利益が見込めない公共サービスであり、民間による長期的な展望を持った運営は難しく、読書の自由を守る役割や運営に対する信頼性と継続性の確保が重要な公共施設であるので、指定管理者制度の導入はなじまない」と結論づけた提言を示したことにより、町当局も議会も「直営の堅持が望ましい」という方針を打ち出しました。

開館後29年たった現在も、同図書館の館長は「住民と協働しながら、ともに図書館を育てていくことが、熊取図書館の発展につながる」と強調していました。

前橋市も図書館本館の移転新築の基本構想が策定されていますが、熊取図書館のように、図書館運営に市民・利用者の意見や要望に耳を傾けて、行政・図書館職員と住民との信頼関係・共に学びあう関係を構築していくことが重要であり、そうしてこそ、住民のよりどころとなる公共施設としての図書館の役割を発揮することができると感じました。大いに学ぶところの大きい視察となりました。

## 2、桜井市埋蔵文化財センターの事業運営について

桜井市は人口5万5千人で、奈良盆地東南部に位置し、飛鳥以前の日本の国の中心地として栄え、古墳や住居跡などの数多くの歴史遺産、文化財に恵まれ、日本書紀などに語り継がれた歴史都市です。

埋蔵文化財センターは、昭和63年に建設され、国・県・市指定の多くの市内の文化財（現在180か所）の保護及び古墳や遺跡の調査研究を行う拠点施設であるとともに、出土した豊富な遺物を収蔵展示し、大人300円・子ども150円で公開する施設運営もしています。同セ

ンターは平成18年度から指定管理制度に移行し、文化財協会が事業を実施してきましたが、令和5年度以降は桜井市の直営に戻し、文化財課が業務を行うと決めています。

同センターが特に力を入れている市内北部の国指定の史跡・纏向(まきむく)遺跡を視察しましたが、同遺跡は3世紀では国内最大級の集落であり、卑弥呼が支配した邪馬台国近畿説の有力候補地とされるとともに、初期ヤマト王権の発祥地として、日本の生い立ちにかかわる重要な遺跡です。また、同課の案内で現地調査した3世紀に築造された箸墓(はしはか)古墳は、全国で11番目に大きな前方後円墳、宮内庁が陵墓として管理しています。「江戸時代までは住民が自由に出入りして薪を拾ったりしていたのに、明治以降は、宮内庁が立ち入り禁止としているため、墳丘が雑木林の状態になっており、調査研究もできない状態となっている」と説明を受けました。

また、同市は平成24年に、纏向学研究センターも立ち上げ、所長及び研究員を文化財課の専門職員が兼務し、全国の考古学や国文学などに係る学者や研究者など21人の共同研究者が無報酬でセンターの調査研究業務を支えています。年1回、東京都内でシンポジウムを開催し、入場料1000円で900人もの参加で調査研究の成果を発表し、研究論文集を発行しています。

歴史文化基本構想や纏向遺跡の保存活用計画を策定し、文化財の庁舎や保存の補助金交付を受けるとともに、ふるさと納税を活用して、文化財の魅力発信事業(纏向遺跡の解説コンテンツや映像 VR 作製)で地元の子どもたちに故郷の魅力を伝えています。

同市は、文化財課職員は全員が考古学などの専門職員として採用されており、課長を筆頭に埋蔵文化財の発掘などにも携わっており、展示している出土品や古墳や遺跡の現地での説明も大変リアルであり、全ての職務に対する誇りをもっていることがレクチャーを受けて実感しました。

視察を通じて、地域差はあるものの前橋市としても、市内の数ある古墳や遺跡にももっと光を当てて予算も増やし専門職員も雇用して、関東地方の飛鳥時代以前の豪族の残した遺跡として保存し後世に残すことが必要と感じました。なお、説明を受けた同市の文化財課長は、「大事なことは、かけがえのない文化財を決して観光誘客の資源としてとらえず、後世に残す歴史遺産として子どもたちや市民が郷土の誇りとして考えられるように、学習教育や調査研究の対象としてとらえることが重要です」と強調していたことを、付け加えておきます。

以上